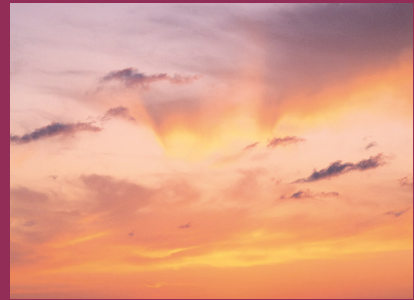




とりなし手の皆様へ

世界のための祈り

ダイアン・グリコ師



「全世界をさばくお方は、公義を行うべきではありませんか？」 死後の救いの可能性について

■もう何年も前のことになりますが、聖書学院生のある若い姉妹がとても悲しそうな顔をしていたので、彼女のために祈ってもいかにどうか尋ねました。私は、その時彼女が、「私の両親が地獄にいるのに、私はどうして幸せになんてなれるのでしょうか。」と答えたことを決して忘れることができません。

私のこのように答えました。「シェリー（仮名）、誰一人として人間は誰が地獄に行くかと言うことはできませんよ。裁きは神様だけがなさることですから。でも、私たちは天のお父様が義なるお方であることを知っていますし、あなたのご両親の永遠の将来について、天のお父様に信頼することができますね。また、私たちは天国で、誰がそこにいて誰がいないのかということで、主と口論しないということも知っていますね。」

「これは事実です。天国で私たちは、自分ではどうすることもできない事柄について何も思いわずらわうことなくイエス様の臨在の中で本当に喜びにあふれることでしょう。」それからシェリーに、主はあなたが一生悲しそうな顔をして過ごすことを望まれない、と説明しました。そして、私は象徴的に彼女の両親を彼女の手の平に乗せるようにお願いし、次のような祈りに導きました。

「主よ、ここに私の両親がいます。あなたは義なるお方であり、私は彼らの永遠の将来についてあなたに信頼するゆえに、彼らをあなたにゆだねます。」そしてシェリーは両手を頭上に持って行き、両手を広げて両親を神様に明け渡しました。

主がシェリーをいかに造り変えてくださったかを見るのは素晴らしいことでした。また、シェリーは喜びにあふれた人生を歩み始めることができました！なぜ、このお話がそんなに重要なのでしょうか？なぜなら、多くの信者が自分に理解できないことについて神様に質問し、神様を非難したりさえます。例えば、神様が愛の神ならなぜ人を地獄に行かせるのかなどと。しかし、神様はすでに人がイエス様を救い主として受け入れられるように、又私達が天国において永遠のいのちを持っていることを知ることができるように、必要なすべてのことを成し遂げてくださっているのです。

神様との出会いがなく、又は福音を聞くこともなく死んでしまったと私達が思っている人々についてはどうでしょうか？彼らの人生の中で、彼らが悔い改める機会も、神様に応答する機会もなかったと言う私たちは一体何者でしょうか？神様は人に善悪を判断するための良心をお与えになり、神様は人を悔い改めと救いに引き続けてくださっていると聖書は語っています。

神様のいつくしみを疑う代わりに、神様の創造やみことば、また、「この終わりの時には、御子によって語られた」（ヘブル1:2）ことを通してご自身をあらわしてくださったことを喜びましょう。私達がみことばを私達の最高権威として受け入れる時、悪をなすことができず、私達よりはるかに知恵ある神様の愛の御手の中にいることを認識します。

例えば、私達が御言葉を最高権威として受け入れるなら（ヘブル9:27「人間には、一度死ぬこと死後にさばきを受けることが定まっている」ことも含む）、魂が永遠の「無」に至って解放され

るまでは下等生物にさえなると教える輪廻転生という悪霊的な教えを受け入れはしないでしょ。

また、この聖書箇所は、神は愛なるお方なので罪を罰さないで、すべての者に死後の悔い改めと救いのためのセカンドチャンスがある、と信じることから私達を守ってくれます。これは私達の罪のためにイエス様が十字架にかかって支払われたその代価を無意味なものにしてしまいます。というのは、この教えは、人々が罪責感を覚えず、聖い人生を歩まず、未信者に福音を伝える必要もないと考えさせるのです。

生けるみことばであられるイエス様はヨハネ8:26~28で言われました。「わたしはその方から聞いたことをそのまま世に告げるのです。・・・ただ父がわたしに教えられたとおりに、これらのことを話しているのです」死後のいのちのペールを取り除いたイエス様（ルカ16:19-31）がセカンドチャンスという古くからある誤りを論破するのです。

ルカ16章でイエス様は実在した二人の人について教えておられます。貧乏人ラザロと金持ちの男は死んでどちらもハデス*に行きました。（*ハデスとは、2つの区画からなる死後の世界を意味するヘブル語。）金持ちは苦しみもがき、貧乏人はアブラハムのふところ、パラダイス**と呼ばれる旧約時代に神を信じた者達とともに安全なところにいました。イエス様は、金持ちは地獄で苦しみに会い、貧乏人は永遠の命が保障されているということをほのめかしているわけではありません！むしろ、私達の永遠の将来を決めるのは、私達と神様との関係であることをアブラハムとラザロの会話によって啓示されたのです。（**旧約時代に神を信じた人々は、イエス様の復活の時にハデスから解放され、今や天のパラダイスでイエス様とともに過ごしています。）

ルカ16:19~31から、金持ちの男について次のことを学ぶことができます：

- 1) 彼はまだ悔い改めず、自分に焦点を当てている。
- 2) 助けて欲しいと願うが、義とされた信者と共に一緒にいたいという態度は全くない。
- 3) 身体的に苦しんでいた。
- 4) ハデスには、死んだ義人と死んだ不義なる人の間に「淵」があり、埋められることはない。
- 5) たとえ死んだ者が地上にいる未信者に証しをしたとしても、彼らが自動的に自らの罪を悔い改めることを意味するわけではない。

注意してください！私達の敵である悪魔は信者を混乱させるために、又、他の人に赦しと救いの福音を分ち合うことから信者を妨げるために間違った教義やカルト、人間の誤りを用いるということを知りましょう。聖霊様をあなたの人生に歓迎しましょう。なぜなら、聖霊様は信者をすべての真理に導くとイエス様がおっしゃったからです。みことばは言っています；

「目が見たことのないもの、耳が聞いたことのないもの、そして、人の心に思い浮かんだことのないもの。神を愛する者のために、神の備えてくださったものは、みなそうである。神はこれを、御霊によって私たちに啓示されたのです。御霊はすべてのことを探り、神の恵みにまで及ばれるからです。」（1コリント2:9 - 10）

神様を愛し、イエス様を愛し、聖霊様を歓迎し、みことばを大切にし、神のなさることはすべて義であることを覚えましょう！神様に賛美と誉れと栄光をとこしえにささげましょう！

文責 ダイアン・グリコ